

**製品名: IRF-7 (リン酸化 Ser477) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04872**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	55kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IRF7
別名	Interferon regulatory factor 7 (IRF-7)
遺伝子 ID	3665.0
SwissProt ID	Q92985
免疫原	ヒト IRF-7 (Ser477) 周辺の合成リン酸化ペプチド

**背景**

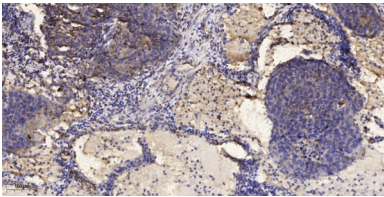
IRF7 は、インターフェロン調節転写因子 (IRF) ファミリーの一員であるインターフェロン調節因子 7 をコードしています。IRF7 は、インターフェロン  $\beta$  鎖遺伝子を含むウイルス誘導性細胞遺伝子の転写活性化に関与することが示されている。IRF7 の誘導発現は

主にリンパ組織に限定されている。複数の IRF7 転写バリエーションが同定されているが、これらの機能的影響はまだ確立されていない。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 転写活性化因子。IFN プロモーター内のインターフェロン刺激応答エレメント (ISRE) および EBV 核抗原 1 (EBNA1) の Q プロモーター (Qp) に結合します。抗ウイルス活性の分子スイッチとして機能します。感染に反応してリン酸化によって活性化されます。活性化は核内滞留、DNA 結合、および転写活性化能の抑制解除につながる。誘導: I 型インターフェロンによる。PTM: ウイルス感染に反応して、C 末端セリンクラスターがリン酸化される。リン酸化およびそれに続く活性化は、ワクシニアウイルスタンパク質 E3 によって阻害される。類似性: IRF ファミリーに属する。類似性: 1 つのトリプトファンペンタドリピート DNA 結合ドメインを含む。細胞内局在: リン酸化され活性型となったものは、選択的に核内に蓄積する。サブユニット: ホモ二量体。リン酸化誘導性。TICAM1 および TICAM2 と相互作用する。ロタウイルス A の NSP1 と相互作用し、この相互作用により IRF7 のプロテアソーム依存性分解が引き起こされる。エプスタイン・バーウイルス LF2 と相互作用します。組織特異性: 主に脾臓、胸腺、末梢白血球で発現します。、

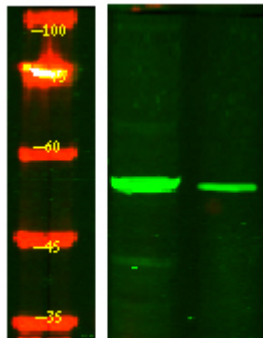
## 研究分野

Toll\_Like;RIG-I 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト肺扁平上皮癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、45 分)。



LPS 処理または未処理の HeLa 細胞を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。